

# 第3学年 道徳科学習指導案

## 1 主題名 きまりを守る

### 2 ねらいと教材

約束やきまりを守るよさについて考え、約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。

(C-1-2 規則の尊重)

「きまりじやないか」（東京書籍）

### 3 主題設定の理由

児童が成長することは、所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。しかし、きまりは自分たちを拘束するものとして自分勝手に反発したり、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくって自分たちの仲間内で決めたことを大切にしようとしたりして、周りの人に迷惑をかけてしまうことがある。そこで、約束やきまりの意義について考えることを通して、それらが個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解させることが必要である。そして、よりよい人間関係を築いていくためにも、自分の思いのままに行動するのではなく、進んで約束やきまりを守って行動しようとする態度を養うことが大切であると考え、本主題を設定した。

本学級の児童は、素直で活動的である。教室前が50m程の長い廊下の突き当たりにあり、一日に何度もその長い廊下を通って学校生活を送っている。走ったり、話しながら廊下いっぱいに広がって移動したりして、危険な思いをしたり他学年に迷惑をかけたりしてしまっていた。そこで、「右側を一列で静かに歩こう」とクラスで話し合い、取り組んでいる。きまりを守ることは大事なことであると認識し、声を掛け合って守ろうとする姿も見られるようになってきている。しかし、早歩きならいいなどと勝手なルールを作り、教師の見ていないときには自分の欲求に負けて守れないこともある。また、中にはどうしてきまりを守る必要があるのか、十分に理解できていない児童もいる。

本教材は、周りの友だちが雨の日の遊びのきまりを守らずに自分の欲求のままに外へ遊びに行こうとする中、主人公の裕一はきまりを守り通す話である。裕一にも、周りの友だちと同じように「外で遊びたい」という思いはあったはずである。それでも、裕一がきまりを守ったのはどうしてか考えさせることで、約束やきまりを守らないと自分が困ったり、たくさんの周りの人に迷惑をかけたりしてしまうことを理解させたい。そして、「先生が見ているから」「叱られるから」ではなく、約束やきまりを守る意義やよさを理解した上で行動できるようにしていきたい。

#### 4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点
導入	1 本時の主題に関する問題意識をもつ。	○みんなが気持ちよく過ごすための約束やきまりはどのようなものがありますか。 ・廊下を歩く。 ・チャイム着席をする。	○「きまり」について考え、ねらいとする価値への関心をもたせる。
展開	2 「きまりじゃないか」を読んで話し合う。  ○雨があがり、ドッジボールに誘われたときの裕一の思いを考える。  ○きまりを守り通したときの裕一の思いを考える。	○大助に「さあドッジボールをしよう」と言われたとき、裕一はどう思ったでしょう。 ・ボードが赤だからダメだよ。 ・しかられるよ。 ・みんなも行っているから行こうかな。  ○それでも、「でも、きまりじゃないか。」と言ったのは、裕一のどんな気持ちが強かつたからでしょう。 ・しかられたくない。 ・きまりを守らないと困ったことになる。 ・周りに迷惑をかけてしまう。	○裕一に遊びに行きたいという気持ちもあることに気付かせる。 ○自分だったらどうするか心情メーターで表すことで、自分自身との関わりで考えられるようにする。  ○きまりを守らないと自分だけでなく、周りの人にも迷惑をかけてしまうことに気付かせる。
	3 きまりを守る意義について考える。	○きまりを守るとどうなるのでしょうか。 ・みんなが気持ちよく過ごせる。 ・安心して過ごせる。	○教材からの学びを基に自分たちの実生活を振り返りながら考えさせる。
終末	4 自分を振り返り、これから的生活について考える。	○きまりを守ることについてどう考えましたか。	○振り返りの書き出しを提示し、自己を見つめられるようする。

#### 5 評価の観点

- ・自分自身を振り返り、約束やきまりを守るよさについて考えを深めようとしている。